

1 令和3年度のしめくくり、令和4年度のスタートに小中連携を！

昨年末は「令和3年度英語教育実施状況調査」に御協力いただきましてありがとうございました。コロナ禍の中、各校において英語教育を推進していただいている様子がわかりました。

この調査で、小中連携の実施について、前回（令和元年度）から改善がみられましたが、さらに小中連携を進めていく必要があることもわかりました。

昨年度の英語通信 vol.11 に記載したように、令和2年度に小学校に教科として外国語科が導入されたことに伴い、令和6年度まで、毎年、小学校での外国語（英語）の学習内容（学習総時間）が異なる生徒たちが中学校に入学してきます。小学校で培ってきた児童の英語力を中学校でさらに伸ばしていくために小中連携は欠かせません。

そこで、令和3年度のまとめの時期である今、各校、各中学校区で、令和4年度に円滑なスタートをきる準備を進めてほしいと思います。

この時期に
どんなことが
できるか考え
てみませんか

小中連携の例

小学校 小学校での活動内容や児童の成果物などを中学校に伝えよう

小学校外国語の授業では様々な活動を行っています。ポスターや手紙など児童が作成した成果物や発表の様子などを ICT も活用しながら中学校教員と共有しましょう。中学校教員は児童がどのような場面で、どのような学習をしてきたのかがわかり、指導に生かすことができます。

中学校

小学校での学習内容を知ろう

●小学校では、いわゆる「文法」として学習するのではなく、場面設定の中で様々な言語材料に出会います。校区の小学校で使用している教科書を参考にして、小学校で扱っている言語材料（言語活動で活用した表現）などを確認しましょう。

●小学校では、既習表現や対話を続けるための表現の定着を目的として、児童と先生、児童同士が自分自身に関する本当の出来事や気持ちなどについてやり取りする「Small Talk」を実施しています。小学校でどのくらい Small Talk を実施しているか、どのような題材を扱っているかを知り、中学校の入学時から継続して取り組むことで、生徒の英語によるコミュニケーションの能力を向上させることができます。



小・中学校

CAN-DO リストを共有しよう

三重県では、すべての小中学校において CAN-DO リストが作成されています。小中学校間で互いの CAN-DO リストを共有し、円滑な接続になっているか、児童生徒につけたい力はつながっているかを確認する等、CAN-DO リストを活用して小中連携を行うことができます。

ある単元をどう進めていくのかを考えると、次のような順序で計画を立てていきます。

- ①ゴールの設定 *CAN-DO* リストの到達目標と関連があることを確認しましょう。
- ②単元計画の作成 どのような言語活動に取り組み、ゴールに向かうか計画します。
- ③指導 単元計画を基に、児童生徒の状況を確認しながら指導します。
- ④評価 児童生徒の達成度を測ります。ペーパーテストで測れない場合には、パフォーマンステストを行います。

パフォーマンステストで、どのような姿に到達すれば *A* なのか、どのような姿に到達すれば *B* なのかということを共有するためのひとつのツールとしてルーブリック（評価基準表）があります。単元のはじめにルーブリックを児童生徒と確認することで、児童生徒がそのゴールに向かって自らの学習を振り返り、より良く学ぼうとする効果が期待されます。

中学2年生の学年末を例に、ルーブリック（評価基準表）を作成してみましょう。

単元目標 日本にきたことのない外国の人に、「おもしろそうだな。日本に行ってみたいな。」と思ってもらえるように、あなたがおすすめするものを紹介しよう。

指導内容 自分のおすすめするものについて理由や魅力をまとめ、ペアやグループで練習する。お互いにアドバイスをし合い、発表内容や表現を高めていく。

【ルーブリック（評価基準表）例】



それぞれの観点に沿った内容にします。1つの項目に、複数の観点を入れないようにします。例えば、「正しい英文で、複数の情報を加えながら説明することができる」では、「知識・技能」「思考・判断・表現」の両方の観点が混在しています。

「目的・場面・状況」に合った内容として適切かを判断します。文法の正確さを評価するのではなく、英語による発話内容で判断します。

	英語表現 (知識・技能)	発表内容 (思考・判断・表現)	伝え方の工夫 (主体的に学習に取り組む態度)
A	これまでの既習事項を組み合わせて、正しい英文で話すことができる。	おすすめのもの理由や魅力について、内容や順序を考えて伝えることができる。	おすすめのもの理由や魅力について、相手を意識して、内容や順序を考えて伝えようとしている。
B	コミュニケーションに支障のない程度の英文で話すことができる。	おすすめのもの理由や魅力について伝えることができる。	おすすめのもの理由や魅力について伝えようとしている。
C	自分の言いたいことを適切な英文で伝えることができない。	おすすめのもの理由や魅力について、どちらかしか伝えることができない。	おすすめのもの理由や魅力について、どちらかを伝えようとしている。

抽象的な表現の場合、具体的な英文を示したり、動画で見せたりしましょう。AやBの姿をイメージできることが大切です。

この場合、相手を意識して伝えるというのはどういうことかを生徒と共有しましょう。表情やジェスチャー、声の大きさ、情報量などが考えられます。学年に応じて、具体的に示すことも良いでしょう。

パフォーマンステストの後には、良かったことを全体で共有したり、個別に支援したりして、児童生徒が学習の成果を確認し、今後の学習の励みとなるようなものにしましょう。